

令和6年度湯前町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が51%で、転作作物に占める飼料作物の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいない。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付けに転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農業の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、水稻作付面積の維持が課題となっている。

その他、麦、大豆においては、排水不良などにより単収の低下を招いており、作付けが減少しているが、麦、大豆、そば、飼料作物については二毛作を推進し、飼料作物、WCS用稲については耕畜連携も併せて推進していく。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

(1) 適地適作の推進

当地域ではメロンやイチゴ、キュウリなど様々な高収益作物が栽培されており、農業者毎にそれぞれの作付体系に適合した品目の導入を図っていく。

(2) 収益性・付加価値の向上

高収益作物への計画的な転換を図るため、地域への畑地化促進助成の周知を行い、産地における水田農業の高収益化を推進する。

(3) 新たな市場・需要の開拓

商談会や現地プロモーション活動を活用しながら、新たな需要の拡大を図る。

(4) 生産流通コストの低減

生産性向上のために「強い農業づくり総合支援交付金」や「産地生産基盤パワーアップ事業」等を活用し、施設整備を進めていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

畑地化の取組について重点支援期間であることの周知を行い、地域計画の策定や畑地化促進助成を周知する中で、水田の利用状況についても点検し、今後施設園芸を中心に水稻作に活用される見込みがない水田については、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。

また、転換作物について、麦、大豆、そばを推進し、ブロックローテーションによる計画的な転換作物の作付けを推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

町内約 500 h a の水田について、適地適作を基本として産地交付金を活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

特に、飼料作物を転作作物の主体として位置付け、生産コストの効率化等に取り組みながら、あわせて、農家所得の確保の観点から地域振興作物の作付けを推進することで、魅力ある産地づくりを推進する。

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって、安心・安全な米作りを推進するとともに、前年の需要実績や集荷業者等の意向を勘案しつつ、需要に応じた米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米の生産拡大にあたっては、今後も産地交付金を活用し、多収品種の導入推進及び団地化の推進を図る。

イ WCS 用稲

主食用米の需要減少が見込まれる中、WCS 用稲を転作作物の中心に位置付け、耕種農家と畜産農家との連携により、水田における良質の粗飼料生産を行い、作付面積の維持・拡大を図る。

ウ 加工用米

加工用米については、今後も酒米としての利用を中心に、産地交付金を活用し生産の拡大を図っていくこととする。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、生産性の高い優良品種への転換により収量・品質の高位安定化を図る。

飼料作物では、耕種農家と畜産農家の連携により水田からの良質の粗飼料供給（トウモロコシやイタリアン等）を今後行う必要があるため、産地交付金を活用し、安定生産と資源循環の取組を支援する。

また、産地交付金を活用し二毛作の作付けを支援することで作付面積、水田利用の維持・拡大を図る。

(4) そば、なたね

地域の実需者との契約に基づき、産地交付金を活用して二毛作の作付等の取組を支援し、現行の栽培面積を維持・拡大する。

また、適切な排水対策を実施することとする。

(5) 地力増進作物

ソルガム、イタリアンライグラス、えん麦、ライ麦、青刈りとうもろこし、ギニアグラス、スーダングラス、アカクローバー、クリムソンクローバー、ヘアリーベッチ、カラシナ、マリーゴールド、ひまわり、ナタネ、ひえ、れんげを作付けし土壤中に鋤き込むことで、連作により低下した水田の地力を回復させるとともに、対象水田について産地交付金を活用し、高収益作物への転換を図る。

(6) 高収益作物

メロン、イチゴなどの施設園芸作物を中心として生産拡大を図るとともに、産地交付金を活用し、オクラ、ブロッコリー、ズッキーニ及び甘長とうがらしといった高齢者でも取り組みやすい作物やその他野菜を地域振興作物として普及に努め、水田の不作付地の抑制にも努める。

また、花き・花木等についても水田活用に効果的な作物であるため、今後とも支援を行い、作付面積の維持・拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	252.0	0.0	260.0	0.0	270.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飼料用米	19.2	0.0	15.2	0.0	21.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	73.3	0.0	73.5	0.0	73.7	0.0
加工用米	0.0	0.0	2.9	0.0	4.0	0.0
麦	18.3	14.9	18.5	15.1	19.8	16.4
大豆	0.0	0.0	0.1	0.1	0.8	0.8
飼料作物	135.0	94.0	135.5	94.5	135.7	94.7
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	2.0	1.6	2.1	1.7	2.7	2.3
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地力増進作物	8.2	7.7	8.3	7.8	9.5	9.0
高収益作物	41.9	17.0	41.2	17.2	44.0	18.5
・野菜	26.8	9.3	27.0	9.5	28.0	10.5
・花き・花木	4.2	1.8	4.2	1.8	4.2	1.8
・たばこ	5.9	5.9	5.9	5.9	6.2	6.2
・ミシマサイコ	5.0	0.0	4.1	0.0	5.6	0.0
その他	2.3	2.3	2.8	2.8	3.8	3.8
・雑穀	2.3	2.3	2.8	2.8	3.8	3.8
畑地化	1.2	0.0	2.3	0.0	2.5	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績） 令和5年度	目標値 令和8年度
1	野菜、花き、雑穀等	地域振興作物助成 （基幹）	作付面積	44.2ha	47.8ha
2	麦 飼料作物 そば	二毛作助成 （二毛作）	作付面積	麦 14.9a	麦 16.4ha
				飼料作物 94.0ha	飼料作物 94.7ha
				そば 1.6ha	そば 2.3ha
			水田利用率	117.6%	117.9%
3	飼料作物 WCS用稲	資源循環の取組 （基幹・二毛作）	取組面積	76.4ha	77.0ha
			取組率	36.6%	36.9%

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県:熊本県

協議会名:湯前町農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	地域振興作物助成(基幹)	1	13,000	別紙1のとおり	通常の肥培管理を実施し、出荷、又は販売を行っている等
2	二毛作助成(二毛作)	2	12,000	麦、そば及び別紙2のとおり	対象作物について、通常の肥培管理・出荷販売を行う等
3	資源循環の取組(耕畜連携・基幹)	3	10,000	飼料作物、WCS用稲 ※飼料の範囲は別紙2のとおり	当該水田で生産された粗飼料作物等の供給を受けた家畜の排せつ物から生産された堆肥を散布すること、堆肥の散布量が10a当たり2t又は4m ³ 以上であること等
3	資源循環の取組(耕畜連携・二毛作)	4	10,000	飼料作物 ※飼料の範囲は別紙2のとおり	

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。